くにみ

【才88号】
昭和40年1月15日発行
非売品
発行所　国見町公民館
発行人　佐藤善次郎
編集人　鈴木美一
印刷所　宇佐美印刷所

3月1日を期し大型農協誕生
合併予備契約成る

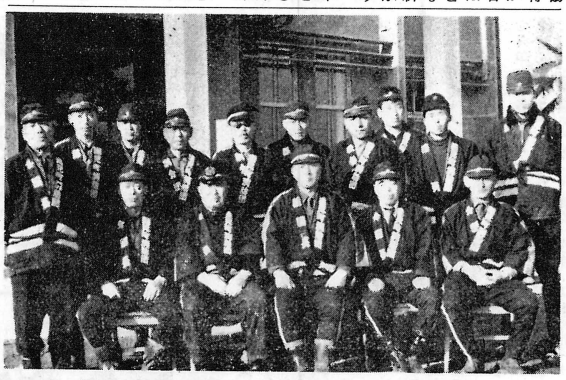
昨年の春以来、全町民の注目と関心を集めていた農協の合併問題は、赤井畑町長を始め関係者一同の努力により、年の瀬も迫った十二月二十六日、国見町役場会議室において、町内各農協全役員拍子の中で、めでたく合併の予備契約書に調印された。今後は、各農協毎にそれぞれ総会を開き、合併について組合員の賛成を得、三月一日を期して国見町の全農民が一丸となった国見町農業協同組合が発足する運びとなるのである。

経済の高度成長に伴ない、相対的にその経済的地位が低下しつつある農業者の社会的経済的地位の向上を目的とし、農協組織の拡大強化が早くから叫ばれてきたが、わが国見町では、昨年五月十三日農協合併調査研究会をつくりこの問題とどり組み、慎重な研究を重ねた結果、ここに立派な実を結ぶ段取りとなったのである。とりわけ、国見、梁川両町にまたがる大枝農協は、組合員の要望により、行政区域どおりにわかれ、しかも他の四農協と同時に対等合併できることになったことは、まことによろこばしいことである。大枝地区では早くも新しい構想の下に大枝支所新築について積極的な意欲を示しこのよろこびにこたえようとしている。

合併後の国見町農協は、昨年夏に完成した共同利用所を本所として、組合員二、〇〇〇人、出資金約二、一〇〇万円、貯金高三億四、〇〇〇万円のデラックス組合となり、新しい装いの下にどんな夢と希望を組合員に与えてくれるか、今問題の農業の近代化のためにどんな偉力を発揮してくれるか、組合員の期待はまことに大なるものがある。

尚今後合併までの日程は次のとおりである。

一月六日～十一日
合併経営計画書の作成検討
一月十四日
合併促進協議会の開催（経営計画審議）
一月十五日～二十日
各農協毎に部落懇渋会開催
一月二十三日
各農協毎合併総会開催
設立委員の選任
一月二十四日～二月二十日
定款の作成
役員の選任
二月二十五日
合併認可の申請
三月一日
新組合の発足
旧組合の解散



今年も火の用心にご協力を……
〝出初め〟を終えてひといきついたところ（1月6日役場前で）

写真ニュース (1)

新年おめでとう

国見町長　赤井畑　直衛

明けましておめでとうございます。希望にみちた輝かしい昭和四十年の新春を迎えるにあたり、町民皆様のご健康とご多幸をお祈り申上げると共に、旧年中町政各般にわたり、深いご理解とご支援ご協力をたまわりましたことについて心から感謝申上げる次第であります。

昨年は、春の凍霜害から秋の長雨による被害など未曾有の損害を受け、更に金融引締め政策の影響等による中小企業の不振等、必ずしも明るい年であったとは申されませんが、幸いにして皆様の真摯なご努力により次年にこれが回復を来しつつあります。

本年は更にこれら災害の復旧に努めると共に、農業の近代化をはじめ商工業の振興、教育の発展をはかり、国県の施策と呼応して効率的な方途に万全を期し、もって町民の福祉向上と町勢進展のため微力をつくしたいと存じます。

町民皆様の倍旧のご支援とご鞭撻をお願い申上げまして新年のご挨拶といたします。

内部障害の癈疾にも障害年金

これまで障害年金は、外部障害による廃疾についてのみ支給されていましたが、こんと法律が改正され、左記のような内部障害による廃疾についても支給されることになりました。該当するとおもわれる人々は扶養義務者、保護者等は町役場に申出て相談を受けてください。（昭和三十九年五月三十日法律才八七号昭和三十九年八月一日実施）

記

満二〇才以上七〇才未満の人でつぎのような障害があり自分で日常の用を弁ずることができないような人（ただし三年以上経過している人）

1、結核性疾患による身体の機能の障害
2、結核性疾患により長期にわたって安静を必要とする病状
3、結核性以外の疾患による呼吸器の障害
4、精神の障害（精神分裂症・そうう症・非定型精神病・てんかん・中毒精神病・器質精神病等で精神病質神経症・精神薄弱を除く）

新任のご挨拶

古宮　佐源治

わたくしこと十二月一日付をもって当町の教育長に就任いたしました。曾て四年前、藤田小学校長を最後に教職を退いて家庭人になりすましていました処、縁あって再び当町にお世話様になることになり、喜んで勤務しています。

教育の実務については、相当永い経験をもっていますが、教育行政についてはまったくの素人ですので、旧に倍する御支援と御協力を切にお願いする次第です。

教育のことは大へんむずかしい仕事で最も大切な仕事です。町の理想を高く掲げ、しっかり地についた歩みを続けてその実績を挙げて行きたいと思います。

どうぞよろしく

巣ごもり準備に大わらわ

写真ニュース (2)
一月十一日から一か月の合宿に入る。自分のふとんは自分でつくるため、なれない針でズブリズブリ。（一月八日研修所で）

明るいニュース二題

とかく暗い話題の多い歳末に、これはまことに心あたたまる明るいニュースとして係りの人たちを感激させている。

◎米寿祝いに五千円寄付
当町大字藤田字北、仲田幸吉氏母堂しもさんは、日ごろ元気で若いものにまけないで暮していられるが、ことし八十八歳を迎えたのを機会に、町社会福祉事業のために金五、〇〇〇円を寄付された。

○匿名でバレーシューズたくさん…当町商工会を通じ、恵まれない家庭の子どもさんたちに贈ってくださいと特に名前をかくしてバレー靴三八足を寄付された。

賀正　紙上名刺交換会（会費不要　順序不同）

国見町議会
議長　東海林一郎
副議長　大沼　酉治
総務委員会
委員長　松浦喜一郎
副委員長　宍戸　武雄
委員　遠藤　久吉
同　安藤　庄七
同　佐久間　清
同　須田　滋一
同　大沼　酉治
同　東海林一郎
経済委員会
委員長　八島建次郎
副委員長　大波　由助
委員　吉田　一雄
同　大波　久
同　菊地　平吉
同　佐久間正寛
文教厚生委員会
委員長　大浪　政吉
副委員長　古川　要吉
委員　佐藤　元一
同　佐藤　新七
同　遠藤　喜平
同　羽根　善一
建設委員会
委員長　菊地　政治
副委員長　奥山福太郎
委員　武田　三郎
同　小林　正夫
同　佐野　正治
同　菅野　正明
議会事務局長熊坂　善七
国見町監査委員野村　隆一
同　宍戸　武雄
同　林　長七
国見町選挙管理委員会
委員長　早田　盛
委員　横山　政市
同　佐藤　政三
同　曳地　芳男
農業協同組合役員
小坂農業協同組合
理事菅野　正明　佐藤　豊吉
組合長理事　佐藤善右工門
理事　林　元衛　赤坂栄次郎
紺野　忠蔵　野村　隆一
佐藤　源蔵　朽木　松吉
佐藤　俊雄　佐藤　元一
監事高橋　豊一　仲野直一郎
藤田才一農業協同組合
組合長理事　赤井畑直衛
理事穂苅　計三　奥山福太郎
八島房次郎　高野要次郎
菊地　忠顕　浅野　利市
秦　勝喜　吉田　一雄
八島　昌　松浦権次郎
監事菊地　太三　紺野金兵衛
奥山勝太郎
森江野農業協同組合
理事吉田　忠夫　後藤　豊松
村上　正義　蓬田　直一
引地　芳男　佐久間要助
佐藤亀太郎　菊地　唯七
監事村上　三郎　佐藤　隆治
菊地　吉
大木戸農業協同組合
組合長理事　八島福太郎
理事酒井　保　渋谷　貞一
吉川　亀吉　松浦市三郎
阿部　武夫　斎藤　与市
高橋徳五郎　大沼　酉治
監事村上与惣平　佐藤　武雄
八島　栄一
大枝農業協同組合
組合長理事　鈴木　幸吉
理事
鈴木常之助　新井　玄竜
小林　敏雄　玉手　昭市
監事
佐藤　平治　玉手　寿郎
国見町農業委員会
会長　八島建次郎
委員　中野　正男
吉田　勝由　奥山福太郎
八島　昌　菅野　喜一
後藤清四郎　紺野　忠蔵
佐藤善右工門　吉田　忠夫
斎藤　勘吉　佐久間直次
武田新右工門　佐藤　新七
大波　久　谷口亀之助
宍戸　武雄　松浦市三郎
大沼　酉治　渡辺　善蔵
村上与惣平　遠藤　喜平
八島福太郎　佐藤喜二郎
後藤　俊雄　鈴木　幸吉
農地主事　佐藤　和子
仝　村上徳右工門
国見町役場
町長　赤井畑直衛
助役　佐久間　栄
収入役　関口　道孝
総務課長　八巻　亀寿
経済課長　金田　保美
税務課長　朝内　宗光
厚生課長　中村　政治
建設課長　佐久間　栄
外職員一同
警察署関係
桑折警察署長　柳田　藤雄
小坂駐在所　斎藤　豊文
藤田同　村上　新吉
森江野同　渡辺　善美
大木戸同　加藤　督
消防団関係
国見町消防団長　大津利一
同副団長　樋口弥太郎
才一分団長　菅野　賛郎
才二同　樋口弥太郎
才三同　徳江　喜一
才四同　鈴木　与平
才五同　大沼　金一
国見町遺族会
会長　秦　勝喜
藤田支部長　秦　勝喜
小坂支部長　佐藤　豊吉
森江野支部長　実沢　勘吉
大木戸支部長　阿部　長政
大枝支部長　鈴木　喜助
老人クラブ役員
小坂老人クラブ会長　佐藤　忠一
同副会長　林　元衛
藤田会長　吉田　幸平
同副会長　佐久間喜一
同副会長　後藤　万七
同副会長　蓬田　直一
大木戸会長　大沼　慶一
同副会長　谷津　平作
大枝会長　佐藤　岩吉
同副会長　小林　泰助
連合会長　東海林忠次郎
同副会長　後藤　万七
藤田総合病院長　高屋　宗雄
宮川医院　宮川　豊文
熊谷医院　熊谷　郁男
村上医院　村上　忠雄
沼沢医院　沼沢　忠雄
武見歯科医院　武見弥八郎
小坂郵便局長　佐藤　利夫
藤田同　氏家文治郎
藤田駅長　藤本　猛
貝田同
食糧事務所国見出張所長　小野　正利
伊達中央信用金庫
国見支店長　丹野善太郎
陸商会社長　荒木　政巳
同　専務　荒木　輝征

◎明るい部落づくりは話し合いから……ことしもみんなで元気でなかよく

◎一年の計は一～二月にあり……個人のことも団体のことも

年頭に思うこと

公民館長　佐藤善次郎

○農民のよろこびうたう作業唄　秋来たれども今はさかれず

○あせりくるきざしと思う農民の　まなこ濁りて生計みだる

この短歌のように、昭和三十九年は、我々農民にとってまことに恵まれぬ年であった。早春の凍霜害から秋の長雨による被害まで、本県農作物の災害は実に百四十数億円余とか、全農産物価格の三分の一に近い数である。

○列島は弓なり農夫の天秤も弓なりに耐えて肥桶にこぶ　耐える農夫の汗と足どりが見えるようだ。耐えに耐えて昭和四十年の新春を迎えた。今年こそ農民に幸する気象であるよう念願せずにはおられない。

○太陽の下の自然美話しつつ　妻子を連れて田の畦をゆく

こんな歌が自然に、微笑みと共に、農民の口から流れるような年であらしめたい。これが新春に際して、汗一の私の願望である。

○命あるこの倖せを謝しながら　年の始めに朝餉にむこう。

○年毎に来る台風を怖れつつ　今年は吹くなと祈る元朝

（短歌はすべて全国農業会議所発行歌集「稲の花」による）

昭和も四十年である。人生にたとえれば不惑の年であるが、余りに問題の多いのに驚くものである。ちょっと身近かなものをとりあげてみても、青少年の不良化の問題、交通事故防止の問題、公明選挙の問題、更には農村問題、中小企業の問題等々問題が山積している。なかんずく我々の最も大きい関心事は、経済成長から来るひずみ是正の問題である。内閣も重要施策としてこの問題にとり組んでいる。

しかし、ここで考えねばならないことは、経済面が余りに大きくクローズアップされるために、人間のひずみ是正を等閑にされ勝ちになる傾向があることである。夫婦共稼ぎによる家庭喪失の問題、鍵っ子の問題、農村の後継者の問題、新しい親と子の問題等等、挙げればいくらも挙げられる状態である。

しかし、物ごとはその現象面のみを見ては問題の解決にはならない。因って来たる心の問題を探究すべきであると思う。政府も地方公共団体も経済面の問題については、相当の金も出し、力を入れることを惜しまないが、ひとたび心の問題になると、急にそっぽを向く傾向が強いのは何故であろうか。それは、効果が直ちに表面化しない故かも知れない。しかし、たとえ遅効性であっても、直接人と人と関連する問題は、すべてに先行すべきであると思うがどうであろうか。現内閣のキャッチフレーズの社会開発も、根本は人間の心の開発であることを強く認識すべきである。

わが町でも、ごく近い将来にとり組む筈になっている農業構造改善事業も、すでにお膳立てのできた農協の合併も町民の心の開発が先行しないと、思わぬ結果を招来せぬとも誰が断言できようか。ここにも社会教育の重要性を認めなければいけにいかないと思う。

今年も、このような見地に立って、社会教育のささやかな担い手ではあるが精進を続けたいと思う。町民の皆様のご声援とご協力を心から希うものである。

きょう「成人の日」

"未来に夢持とう"

一、つねに謙虚に自己を反省しよう。民主社会の発展は、人間としての尊さを知り、もの、ことに対して片寄らない判断ができる英知を、正しく身につけようとするおたがいの努力によってはじめて可能である。めまぐるしい世の変転のなかで、つとめて静かに自己を内省するときをもち、新時代に生きぬくたくましい人間として、自己の内面的な充実にまず心がけよう。

一、自他ともに生きる調和の心を養おう。自分の幸福は、ただ一人の力で実現することはできない。家庭生活、職場生活においても敬愛の心をもとにしてつねに和を考え、社会的共存のルールを正しくわきまえて、みずからの言動には責任をもち、自分の発展は常に家庭、社会、国家ひいては国際社会の繁栄とともにあることを自覚しよう。

一、将来への夢をもとう。みなさんは、現世紀ときたるべき二十一世紀の両世紀にわたる存在である。将来に生きる若い命の尊さを知り、自己の生命が受けつがれてきた祖先の歴史、文化、伝統を考え、日本国民として祖国を愛し、あすへの夢をもち、二十一世紀の国際人にふさわしい文化的、科学的、技術的教養を身につけて、ひろく公共のために役だつ創造的意欲にみちた人となるようつとめよう。

好評だった名刺交換会

今年から各小中学校の新年祝賀式をとりやめ、したがってこれを機会に行なってきた町内有志の初顔合せができなくなった。そこで公民館では全町一体となっての名刺交換会を開催した。午前十時から藤田小学校礼法室において、前夜祭から除夜の鐘、町長さんの歳神様と演出効果もなかなかうまく、一〇〇円会費としては上々の出来であったが、なにぶんPRがおくれたため各地区それぞれ計画を終り、残念ながら参加者が少なかった。来年はもっと早く準備を始めてもらいたいという声が多かった。

尚新年名刺交換会を当町恒例のものとするため、みなさんのご意見、ご希望を公民館にお寄せ下さい。

写真ニュース(3)

除夜に感あり

わしらはまだまだ元気だ　これから若返って大いに強勉もしようし、社会奉仕もさせていただこうよ

入団歓迎、但し団員資格は明治生れの男女であること

昭話三十九年よ、さようなら～そして新しい四十年よ、こんにちわ～いまはその新旧の歳の境である。

年末、年始にはなにかとしきたりの行事が多い。クリスマスは、まったく新しい行事だが、これははっきりと都市の消費文化の中に定着したようだ。〝歳の市〟はもともと〝市〟なのだから、ますます旺盛な商業主義に栄えるのは当然だろう。それとは全く無縁に、除夜の鐘の音が凍った空をふるわせて渡ってくるとき、一年の汚濁のアカの消える思いがするのも一瞬。もう新しい年の商業主義が、鐘の音をかき消して、とどろとどろと、大進車の靴音を響かせてくる。バス会社が、おいでおいでをする〝初詣で〟の大行進だ。

年末、年始の行事は、いずれも神事、仏事にかかわりが多いが、人びとはそれになにほどの信心、信仰を寄せているだろう。形式だけは、民族の伝統を継承した行事であるが、内容は似てもか似つかないものに変っている。大衆に大量消費を押しつける商魂が、いつのまにか神の座、仏の座に鎮座ましましているのだ。一夜にして、何十、何百万のおサイ銭にほくそえむのはだれか。

民俗的行事は人の心をなごませる。大衆社会の余暇時代に、こうした行事をいささかでも人間回復のレクリエーションにしようとするなら、大衆をだまして消費させるだけでなく、大衆自身に、なにか創造させるくふうがほしいものだ。善男・善女はだまされることで救われる、というならなにをかいわんや。ゆく年、くる年は消費的慰安・娯楽に立ち向かうに足る、新しい創造的慰安・娯楽活動の活発な展開を期待するものである。

（新生活通信より）

明治の青年団？役員たち

高砂や……

謡の会始まる

謡（うたい）はお祝いの席などになくてならないものとされているが、地方によりいろいろ流派があって、どこでも合うということはない。そこでこんど、有志相はかり、最も格調が高くしかも福島信達地方に一番広く行われている宝生流を選び、その道の大家菊地登先生（桑折町）をお迎えして練習会を開くことになった。又と得難い機会なので町民各位の参加をお奨めする

記

一、期間

一月十三日より三月十七日まで正味二か月間、毎週水曜日午後七時より九時まで

二、場所

板橋　野村隆一氏宅

三、会費

一期間二〇〇円

四、申込み

なるべく早く、公民館又は直接会場へ申込まれたい

■正味一か月を一期として二期間行う

紙上名刺交換会（外一面につづく）

国見町教育委員会
委員長　佐藤　光一
同　鈴木　正
同　佐藤　精一
教育長　古宮佐源治
書記　斎藤　秋雄
書記補　佐藤　春夫
社会教育主事　鈴木　美一

国見町立学校職員
小坂小学校長　菅野　貞雄
同教頭　瀬川　政一
藤田小校長　田村　操
同教頭　朝内　俊雄
森江野小校長　鈴木　彦衛
大木戸小校長　田辺　七郎
同教頭　佐藤　信
県北中学校長　小林　美秋
同教頭　菅井　庄蔵

国見町小学校組合教育委員会
委員長　鈴木常之助

国見町立学校組合教育委員会
委員長　中村　久助
教育長　斎藤　一男
書記　中村　敏男
同　斎藤　秋雄

組合立小学校職員
大枝小学校長　渡辺　末吉
同教頭　五十嵐　仁

国見町社会教育委員
田村　操　小林　美秋
渡辺　末吉　佐藤善次郎
菅野　七郎　玉手　正平
後藤　豊松　八島福太郎
東海林一郎　高橋　トミ

国見町体育指導委員
佐藤　元一　佐藤　春夫
奥山　嘉助　羽根　善一
小畑　貞吉　稲村　克巳
斎藤　太助　徳江　喜一
伊藤　一敏　鈴木　忠吉
佐藤　洋一　大内　守
佐藤　光雄　玉木　イヨ

国見町公民館職員
館長　佐藤善次郎
主事鈴木美一　主事佐藤七郎
同　菅野貞雄　同　渡辺末吉
同　田村　操　屋　春日一憲
同　鈴木彦衛

PTA役員
小坂PTA会長佐藤善右工門
同副会長　安藤　正重
同　高橋　丑蔵
同　黒田　ヒロ
藤田会長　曳地　一
同副会長　佐藤忠兵工
同　本田　林蔵
森江野会長　村上　太一
同副会長　宍戸　三郎
同　高梨　ミネ
大木戸会長　八島　栄一
同副会長　松浦　芳蔵
同　山口トキヨ
大枝会長　佐藤　鶴吉
同副会長　鈴木　保治
同　斎藤　正雄
県北中会長　八巻　正雄
同副会長　佐藤　利雄
同　小林　テイ
同　小林　美秋

婦人会役員
藤田婦人会長　城田　キヨ
同副会長　野村チヨノ
同　八島キサノ
同　佐藤マサイ
森江野会長　村上　トク
同副会長　佐久間ミナト
同　菊地　ウメ
大木戸会長　松浦　ハル
同副会長　山口トキヨ
大枝会長　佐藤ハルヨ
同副会長　小林マサミ

青年団体役員
小坂青年団長　高原　長吉
同副会長　佐藤　洋一
石母田青年会長佐藤金兵工
同副会長　佐藤　邦治
森江野青年団長　渡辺　宏
同副団長　佐藤　淳一
同　八巻　ミヨ
大枝青年団長　佐藤　要蔵
同副団長　小林　一正
同　鈴木　ミチ

交通安全協会桑折支部
副支部長　谷津　藤治
小坂部会長　村上　嘉一
藤田部会長　宇佐美兵蔵
森江野部会長　鈴木誠之助
大木戸部会長　新七

こぶし会会長　渋谷　肇
若い土の会会長　松浦　功
国見町青年連絡協議会長　佐藤　昭元

デンマークの習慣

民国風呂に入らぬ

新年おめでとうございます。旧年中は大変お世わになりました。今年もよろしくお願いします。

昨年十月号までデンマークの習慣を書いてきましたが、あちらにはまだ数多くの日本と異なる習慣がありますので、その中からいくつかをひろって又書いて見ます。今回は、生活の中でも、日本人にはとても切り離せない風呂について書きましょう。

私達がデンマークに行ってまず困ったのは風呂に全然はいれないことです。これはあとになってわかったことですが、風呂についての考え方が根本的に異なっていたことに気付きました。私が初めの農場生活四か月間これが唯一回の入浴でした。

とにかく、砂質壌土のデンマークの畑での仕事で体が汚れることはなはしく汗三日に一度はとりかえていたことを想い出す。そして、又こんな話もする、風呂にあまり入り過ぎると早く老い込んでしまうから入りたくないと。そんなことが事実とすれば、私たちも少し考えてみる必要がある。私たちはヨーロッパ各地で風呂に入れなかった分だけ船に乗っての一か月、毎日二三回づつ入っていたから差引それほどでもないことになる。

八島　博正

宝生流を選び、その道の大家菊地登先生（桑折町）をお迎えして練習会を開くことになった。又と得難い機会なので町民各位の参加をお奨めする

記

一、期間

一月十三日より三月十七日まで正味二か月間、毎週水曜日午後七時より九時まで

二、場所

板橋　野村隆一氏宅

三、会費

一期間二〇〇円

四、申込み

なるべく早く、公民館又は直接会場へ申込まれたい